

1 単元名 持続可能な社会を生きる ～〇〇キッズ☆エコプロジェクト～

2 単元の目標

- 自分や家族等の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方を理解する。
(知識・技能)
- 物の使い方や環境に配慮した生活について、自分の生活の中から課題を見だし、解決に向けて実践し、振り返ることができる。
(思考・判断・表現)
- 環境に配慮し、生活をよりよくしようと家族の一員としてできることを考える。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、家庭科・他教科での学習を踏まえて、自分の生活が身近な環境に与える影響に気づき、持続可能な社会の構築に向けて、主体的に生活を工夫できる消費者としての素地を育てることがねらいである。学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方」の一つとして「持続可能な社会の構築」があげられている。また、総則の中にも、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の作り手となることが期待される児童」と明記されており、持続可能な社会の構築の視点に立った児童の見方・考え方を育てることが求められている。

国連の開発目標であるSDGsの17の目標がメディアを通じて広く知られるようになり、世界的に取り組もうという機運が高まっている。その中で、松山市は、内閣府が選定する「2020年度SDGs未来都市」と「自治体SDGsモデル事業」に選ばれた。地域の取組の一つとして、児童が持続可能な社会の構築について自分事として考えるよい機会である。第5学年からの学びの連続性を意識させ、教科横断的に学習していくことで、地球規模の未来志向の視点をもちながら、今現在の身近な出来事や身の回りの生活の仕方に目を向け、持続可能な社会の実現に向けて、「自分にできることは何か」「自分のすべきことは何か」を考える力が育まれると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、家庭科への興味・関心が高く、これまで掃除、洗濯、裁縫など実践的・体験的活動に意欲的に取り組んできた。また、第5学年では、NPO法人えひめ消費者ネット「ひめまる」との連携を図り、家庭科や総合的な学習の時間において、消費者として環境に配慮した買い物の仕方や、SDGs（持続可能な開発目標）について学んでいる。

本題材の学習をするに当たり、児童の意識調査を行った。

1 家庭科の学習をして、できるようになったことが増えましたか。	・ 増えた 36%	・ やや増えた 50%
	・ あまり増えていない 10%	・ 増えていない 4%
2 家庭科で学習したことを生かし、生活をよりよくしようと工夫していますか。	・ 工夫している 14%	・ やや工夫している 18%
	・ あまり工夫していない 29%	・ 工夫していない 39%
3 環境にやさしい生活を実践していますか。	・ 実践している 25%	・ やや実践している 36%
	・ あまり実践していない 25%	・ 実践していない 14%
4 自分の行動とSDGsの取組とは、つながりがあると思いますか。	・ つながりがある 18%	・ ややつながりがある 14%
	・ あまりつながりがない 39%	・ つながりがない 29%

アンケートの結果から、8割以上の児童は家庭科学習を通して「できることが増えた」という有用感を感じている一方で、その知識・技能を実生活に生かし、工夫した生活ができている児童は約3割にとどまっていることが分かった。また、約6割の児童は、前学年までの学びを生かし、環境に配慮した取組を日々の生活の中で実践することができている。しかし、自分の日々の実践が、SDGsなど環境問題解決へとつながっていることを意識できている児童は約3割である。

(3) 指導観

指導に当たっては、「〇〇キッズ☆エコプロジェクト」という単元を貫く学習課題を提示し、「計画・実践・評価・改善」を繰り返しながら、長期的に家庭での実践に取り組ませる。その様子は、タブレット端末で撮影するなどし、記録する。朝の会で前日の実践を振り返る時間を設け、実践のバロメーターとなる「エコポイント」を蓄積していく。学年掲示板を活用して、各学級のエコポイントや実践したことを掲示することで、児童の取組を可視化し、実践意欲の継続・向上につなげる。また、同時期に行う調理実習においても、エコの観点から実習を考えることで、様々な生活場面で活用できるようにする。

約1か月間、家庭での実践に取り組んだところで、実践を振り返って評価し、環境に配慮したよりよい生活を送るための自分の生活の在り方について考えさせていく。その際、児童の思考を深め、気づきを促すために、愛媛県地球温暖化防止推進員をゲストティーチャーとして招き、問題提起をしていただきながら指導に当たる。専門家の助言や友達との協働学習を通して、自分では気付かなかった多様な取組があることや、家庭科での既習事項を生かし考え工夫することで、自分たちにできる実践がまだ多くあることに気付かせたい。また、思考ツールの一つである座標軸を活用し、自分がこれまで取り組んできた実践や新たな実践アイデアを、「簡単だ」「めんどうだ」「毎日」「時々」の4つの視点から付箋紙を用いて整理していく。そして、自分の生活の中でのバランスを考え、無理なくできる取組を継続していくことの大切さに気付かせるとともに、自分にできることを増やそうとする態度を育てたい。

題材終盤には、実践報告会を行い、自分たちの実践がSDGsの17の目標のうちどれとつながっているかを考えさせることで、一人一人の小さな行動が世界の環境問題解決へとつながっていることを実感させたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性…自分たちが行っている行動の多くは環境問題につながっており、このことを意識しないまま行動し続けていくと、地球環境に大きな負荷をかけること。

有限性…資源は有限であり、大量生産・大量消費を続けていくのではなく、5Sの観点から生活を見つめ直すことが大切であること。

責任性…私たち一人一人がエコの視点から衣食住を見直し、自分にできることを無理なく続けていくことが大切であること。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)

「便利な生活」と「我慢する生活」とのバランスを考えながら、自分の生活を見つめ直す。

多面的・総合的に考える力 (システムズ・シンキング)

家庭科での学びを生かすことで、自分にはどのような環境に配慮した生活ができるか考える。

コミュニケーションを行う力

環境に配慮した生活の工夫について、意見交流や実践交流を通して自分の考えをつくりあげる。

進んで参加する態度

エコの視点で生活を見つめ直し、自分にできる小さな行動を積み重ねていくことで、環境に配慮した生活をしようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

自然環境、生態系の保全を重視する

環境に配慮した生活を送らないと、環境に負荷をかけてしまい、「豊かなくらし」とは言えない。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

再利用できるものは再利用し、限りある資源を大切にすることが「本当の豊かさ」である。

・達成が期待される SDGs

11 まちづくり

17 パートナースhip

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。	① 環境に配慮した生活について物の使い方などに問題を見いだして課題を設定する。 ② 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	① 家族の一員として、生活をよりよくしようと、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

5 単元の指導計画（全5時間+家庭での実践）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1 生活と環境のつながりを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手で残している食べ物のごみになっている。 ・テレビ、ゲーム、YouTube など、電気をたくさん使っている。 ・環境によくない生活をしてしまっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エコ生活チェックをし、これまでの生活を振り返ることで、自分たちの生活が資源や環境にどのような影響を及ぼしているか考えるようにする。 	<p>ア① (知・技)</p>
<p>2 生活を振り返り、環境のために自分のできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の中では、○○ばなし（つけっぱなし・出しっぱなし）が多いから、電気はこまめに消そう。 ・レジ袋が有料化になったから、買い物に行くときは、エコバックが必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活場面ごとに生活を振り返らせ、問題点を見付けさせることにより、改善点をより具体的に考えることができるようにする。 ○改善点をもとに、エコプロジェクト実践計画を立てることができるようになる。 	<p>イ① (思判表)</p>
<p>エコプロジェクトを実践しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って、家庭で実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の時間を活用し、「一つの行動→1エコポイント」としてシールを貼り、行動を可視化する。 ○実践経過を学年掲示板に掲示することで、意欲の向上を図る。 	<p>ウ① (主体的)</p>
<p>3 環境にやさしい生活を続けていくために大切なことは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコの眼鏡をかけて生活を見ると、生活の中にはエコの種がたくさんある。 ・自分に合ったことをすれば、続けられそう。 ・家庭科で習ったことを生かせば、私たちにもできることは、たくさんある。 ・友達のアイデアを参考にしたり、調べたりすれば、まだまだ工夫ができそう。 ・家族にも協力をお願いしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部講師からの問題提起や助言により、エコの視点を広げ、持続することの大切さに気付かせる。 ○便利な生活と、我慢することのバランスについて考えることができるようにする。 ○衣食住に分けてエコ実践を考えていくことで、家庭科での既習事項を生かすと実践のはばが広がることに気付かせる。 	<p>イ② (思判表)</p>
<p>エコプロジェクトを実践しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の実践を参考に、○○をしてみたよ。 ・野菜を無駄なく使う方法をやってみたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな実践や工夫した実践を紹介し、エコの視点を広げることができるようにする。 	<p>ウ① (主体的)</p>
<p>4 エコプロジェクト実践報告会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践できることが増えたよ。 ・エコの眼鏡をかけて考えると、気付けたよ。 ・これからも、自分にできることを無駄なく続けていきたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境問題を自分事として意識することで、行動が変わったことを再認識させる。 ○日々の生活の中で当たり前に行っている行動を継続していくことの大切さに気付かせる。 	<p>ア① (知・技) イ② (思判表)</p>
<p>5 SDGs とのつながりを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで頑張ったことが、環境を守ることにこんなにつながっていたんだな。 ・委員会で全校に呼びかけたいな。 ・ポスターをつくって、公民館やスーパーにかざってもらおうと地域の方にも広げられるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の小さな行動が、環境を守ることにつながっていることを意識させる。 ○今後、自分が継続することに加えて、環境にやさしい行動を広げていくことについて考えることができるようにする。 	<p>ウ① (主体的)</p>